

1 教育目標と目指す児童像

[教育目標]

[目指す児童像]

共に生きる子ども

- ・かしこく・・・自ら学び、考え、行動する創造性豊かな子供
- ・やさしく・・・自他を認め合い、思いやりと社会性のある子供
- ・たくましく・・・心身ともに健康で、郷土を愛し、社会に貢献できる子供

教育目標は、学校と保護者、地域が共通認識としてもつ目標であり、常に意識しながら児童の成長を促し、支援していきます。

2 学校経営の基本的な考え

「心のふるさと 小竹小」をキーワードとして、児童・保護者・地域及び教師が共に育つ学校を創造していきます。

(1) 子供たちの笑顔と真剣なまなざしのあふれる学校

→誰一人取り残すことなく、全員が安心して過ごせる居場所をつくる。前向きにこだわりをもって取り組む姿勢を育てる。

(2) 教職員が自ら教育活動を創造する喜びをもち、前向きに協力する学校

→学習指導、生活指導等、子供の実態に合わせて協力し柔軟に対応できる教師集団を育てる。

(3) 地域や友の会と協働し子供たちの「心のふるさと」となる学校

→地域や友の会と協力し、多くの出会い、多くの思い出が詰まった学校づくりに取り組む。

3 育成すべき資質・能力

(1) 資質

- ・自律性 ・主体性 ・協働性 ・創造性 ・継続性

(2) 能力

- ・基本的な知識・技能を習得する力及び活用する力（基礎力・応用力）
- ・物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）
- ・主体的、論理的に物事を考え、判断し、行動できる力（論理的思考力・判断力・表現力）
- ・創造的に考え、言語や文章で表現することができる力（創造力・表現力）
- ・他者を思いやる心（他者認識力、洞察力）
- ・人との関わりを円滑にできる力（コミュニケーション力）
- ・最後までやり遂げる力（実行完結力）

4 本校が進める教育活動

(1) 教育目標「かしこく」

主体的な課題解決能力及びその基盤となる思考力・判断力・表現力等の育成

- ・児童が主体的に考え、判断し行動できる教育活動を授業や学校行事の中で意図的に設定します。
- ・問題解決型の学習を行い、自分の考えをもつ場面を設定し、話し合い（対話的な活動）や協力して行うグループ活動（協働的な活動）を多く取り入れ、児童同士が互いによりよい問題解決ができるようにします。

・個に応じた指導を充実させ、児童が主体的な学びができるようその基盤となる基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力の定着を図ります。

- ・ICT機器を効果的に活用し、これからの社会を生きるために必要な学力、コミュニケーション力を養います。
- ・学習を支える基盤としての学校・学級環境の整備を推進します。
- ・学習規律を徹底しながら、児童一人一人の学習意欲を喚起するとともに、ユニバーサルデザインの視点から授業改善を行い、児童にとって「分かる・できる・楽しい」授業を目指します。

(2) 教育目標「やさしく」

自他を大切にし、互いに高め合おうとする豊かな人間性の育成

- ・教育活動全体を通して、生命を大切にし、他者に共感できる感性や思いやりのある豊かな人間性を育成します。
- ・道徳科の授業を充実させ、児童が自己の行動を振り返ったり、物事を多面的・多角的に考えたりする機会を意図的・計画的に設け、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。
- ・学校行事や特別活動等の取組を通して、最後までやり遂げる力（実行完結力）を育てるとともに、人との関わりを円滑にできる力（コミュニケーション力）を養います。
- ・いじめ、不登校、その他の問題に対しては、全校体制で組織的な対応を行い、保護者、スクーールカウンセラー、心のふれあい相談員、スクールソーシャルワーカー、関係諸機関等と連携し、問題の早期発見、早期対応、未然防止に努めます。
- ・キャリア教育を推進し、自己の進路・方向性を選択できる能力と望ましい勤労観・職業観を育成します。

(3) 教育目標「たくましく」

主体的に心身ともに健康な体をつくる能力や態度の育成

- ・毎日の健康観察、定期的な健康診断、発育測定等の機会を通し、児童が主体的に健康づくりを行う態度を育成します。
- ・なわとび月間、持久走月間などの機会を活用して、体力の向上を図るとともに、あきらめずに取り組む強い心を育成します。
- ・スポーツへの興味・関心を高め、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体の素地を育成するとともに、スポーツを通じた人とのつながりを大切にし、社会の発展に貢献できる人間的基盤を培います。
- ・安全教育を充実させ、児童が自ら危険を予測し、回避する能力を身に付けさせるとともに、社会の安全に貢献する資質や能力を育成します。

5 教育活動教育活動を進めるための考え方

- ・教科担任制を導入することで、教科に関する教師の専門性・指導力を高めながら、質の高い授業を目指します。
- ・児童への指導（学習・生活）は、学年組織が主体となって行い、学校全体でも情報共有をしていきます。
- ・特別支援教育の充実に向けて、個の課題に応じた指導を行うとともに、様々な子供が共に学ぶことを通して、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会を形成する人間としての基礎を養います。
- ・地域の学校として、カリキュラム・マネジメントの視点から地域の人材・資源、社会的環境等を活用した教育活動を積極的に行い、地域の核となる学校の実現を目指します。

6 目指す学校像・教師像

(1) 目指す学校像「信頼される学校」

子供にとって、魅力ある教師が、分かりやすい授業を行うとともに、人との関わりを大切にしたい思いやりの心を育む教育活動を実践することで、豊かな人間性とよりよい人間関係を築き、子供が生き生きと活躍する学校を目指します。

(2) 目指す教師像「信頼される教師」

「教師こそ最大の教育環境なり」と言われるように、教師自身の成長が大切だと考えます。また、効果的に教育活動を実践していくには、児童、保護者、教職員との信頼関係の構築が肝要です。よりよい教育活動の実現のために、以下のような教師を目指していきます。

① 子供が大好きで子供の意欲を引き出す教師（学習指導）

- ・ 創意工夫した授業を行い、授業で信頼関係を築きます。
- ・ 規律ある授業を行い、授業で生活指導の基盤を培います。

② 温かく、厳しく愛情あふれる指導をする教師（生活・進路指導）・

- ・ 目の前の子供のために何をすべきかを全ての指導の指針とします。
- ・ 教職員一人一人が子供の幸福のために行動するように努めます。

③ 児童・保護者・地域・教職員との信頼関係で結ばれている教師（学校運営）

- ・ 児童・保護者・地域の人々との語り合いを大切に共感の教育を行います。
- ・ 子供の姿が地域に見える教育活動を推進し、地域に根ざした学校をつくります。
- ・ 日々の教育実践の中で、教職員が協力し、互いに高め合う関係性を築きます。
- ・ 常に教育活動を見直し、よりよいものにしていくために改善に努めます。

（3） 目指す「児童との「関わり」」

教育は、多感で若き生命と関わっていく過程であるため、教師や保護者の思いがなかなか伝わらず、思うような結果が出ないこともあります。しかし、子供たちの可能性を信じて、粘り強く取組を続けていくことが大切であると考えます。

本校の教職員は、以下の点を指標として、日々の教育活動実践してまいります。

- ・ 信じぬく ・ありのまま受け容れる ・励まし続ける ・どこまでも支える ・心をつなぐ